九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

〈新資料〉坂口安吾他・座談会「世相放談」 : 『定本坂口安吾全集』未収録資料

花田, 俊典
福岡女子大学助教授

https://doi.org/10.15017/10479

出版情報：文獻探究. 14, pp.38-49, 1984-06-15. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

〈新資料〉坂口安吾他・座談会「世相放談」

――『定本坂口安吾全集』未収録資料――

花田俊典

冬樹社版『定本坂口安吾全集』（全13巻）未収録作品は、まだ少なからずあると見ておく必要があるのだろう。

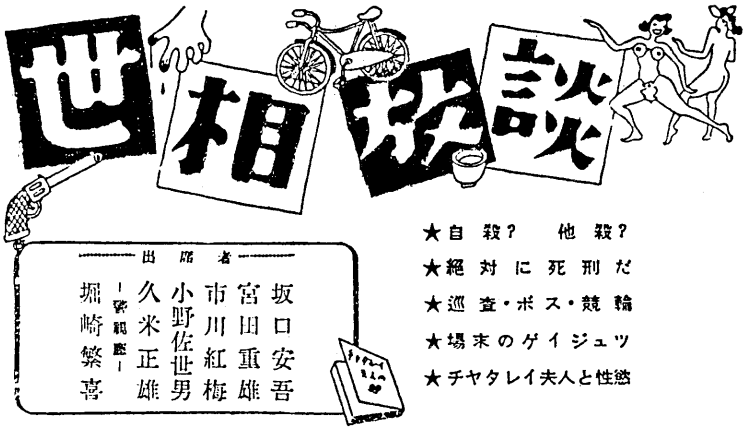
ここに紹介する座談会「世相放談」は、いわゆるカストリ雑誌のひとつ、「モダンロマンス」第二巻第三号（昭和26年2月1日発行、モダンロマンス社、B6版、定価90円）に掲載のもの。

同誌には座談会のほか、高見順「無国籍者」、広津和郎「めぐりあひ」などの短篇小説や、舟橋聖一「女の目ざめ」、田村泰次郎「都会の白鳥」などの連載小説が載っている。

座談会の内容については、とりたてて述べておきたいことはない。安吾の発言に関しても、当時の他のエッセイ等で語られていることと大差はないが、ただ、座談会であるがゆえ、なまの声に近いものがうかがえて、ときに有効に利用できそうだ。

ちなみに全集未収録作品は、これまでに関井光男や若月忠信によって紹介されたものがある（「カイエ」昭54・7、「国文学」昭54・12、「新潟大学国文学会誌」26、昭58・2）し、筆者もまた、本誌1号と7号で紹介しておいた。「東京新聞」紙上のコラム「大波小波」を集成した小田切進編『大波小波・匿名批評にみる昭和文学史』第一巻（東京新聞出版局、昭54・3）にも安吾文がいくつか見えている。全集未収録の安吾書簡もいくつか出てきたし、もはや冬樹社版全集だけでは済まなくなってきていると言わねばならない。

なお、本資料をここに紹介するに際して末吉喜美子氏のお世話になった。また、旧漢字は新漢字に改めた。



久米　この座談会は、つまり、坂口君の例の「安吾巷談」というのを座談会形式にして、いろいろ問題を捉まえ、縦横に掘りさげてみようという趣旨の試みなので、今日は警視庁の堀崎さんに出ていただいて、犯罪の問題をとりあげ、それぞれの立場から大いにお話を願いたいと思うのです。

坂口　堀崎さん、職務がら、沢山喋れないでしょうね。

堀崎　私は今度予備役になつたのですよ。捜査一課長を代わりまして今度仕事の向きが変つたものですから……。

久米　受持が変つたのですか。

堀崎　はあ……。もとく喋ろうとしても喋り下手な性質でもありますし、またいろく立場がありますから、御満足の行くようなことはできないと思いますが、しかしながら、できるだけ私どもの

仕事のことを理解して頂き度い気持でありますから、あなた方も、むしろこの点をきゝたいということもありましようから、出来るだけのことは承りましよう。

自殺？他殺？

久米　堀崎さんは、自殺派だね。下山総裁自殺派だね。

堀崎　あれは、私……

久米　これを第一にとり上げるのはどうかな。……あれは去年だから、年を越しているね、しかし面白いな、一つはじめよう、どうです、なんとかあなた警視庁の立場から……

堀崎　まあ下山事件は私が課長のときにやつて未だ結論を出さないで代つたのですがどうも結論ということになると、私、申上げる立場でないのです。たゞ皆さん方のお考えをきくことは差支えないですがね。

久米　それでどうですか、あゝいうように各新聞に自殺派、他殺派とあるのですが。

堀崎　それはまあそれとして、私の方は一つの事実を積んで行くというだけですね。

坂口　久米さんは、他殺？　自殺？

久米　僕は、これは事実だけしかいゝ得ないけれども、改造、文芸春秋に出たいろ〳〵な捜査報告ね、あれを仔細に読んだよ、それでいろ〳〵考えるところがあつたが、僕は下山総裁なら自殺する。自殺して不思議は一つもない、その点について僕は警視庁の意見に賛成だ。

坂口　いや、そういうこともはつきりいえないよ。

久米　そしたら今度中央公論十二月号に誰か書いたね、朝日の記者だつたかね、それと今日あたりいろ〳〵な新聞が自殺を支持しているね。

坂口　それはわからんですよ、あれは下山総裁のズボンのなかに糠みたいなものがついていたというが歩いたかも知れないですね。僕自身、鬱病になつて、病院に入つたことがあるが、よくわかるよ。自殺であることは、はつきりしているね、他殺ということも否定できないよ、そういう証拠がどこにもないのだから……ああいう状態になると、あらゆるところを動き回るよ、分らないよ。疲労困憊したあげく、あゝいうことになつただけじゃないかと思いますね。

久米　糠のあるところに休んだかも知れないしね。

坂口　計画犯罪ということは考えられないのだよ、計画犯罪なりとすれば、ひとにつかまえられることはありますね、身の物がなにも減つていないのだね、時計でも金でもみなとられていない。

久米　眼鏡が変つているというのは、どういうわけ？

坂口　それは今朝の新聞で、はじめてみたのですよ、本当の事実ですか？

堀崎　眼鏡がないのですよ。

坂口　なくなつていたのですか。なくなつていたのならおかしくないね、眼鏡なんか、なくすものだからね、今朝の新聞はそうじゃないですよ、他の眼鏡がおつこつていたということを書いてある。

堀崎　その所有者がわかつたのですよ……どうも私、つり込まれて、深みへ入りそうですね（笑声）この事件は、触れて頂かん方が、気が楽なんですがね。

久米　しかし、そこが狙いですよ、悪いね（笑声）

堀崎　ほかのことなら……これは……

久米　でも、遠慮しちやつたらしようがないじやないか。

坂口　いや、当り前ですよ、未検挙の事件はね。

市川　私は自殺説をいう人があると肚が立ちますね、絶対他殺ですね。

堀崎　目の前で、そういわれると非常に工合悪いですね（笑声）いじめられているような気がしますね（笑声）

坂口　あの人の、あの前後の言動からしますと、筋がわかるじゃない？大学教授とか、なんでもそういう責任と地位の人間は、みんな気違いに近いですよ、みなメランコリーですよ、人間の職業上から来る、責任感から来るメランコリーは非常にありますよ、ほとんど気違いに近いもので、発狂していますよ。

久米　それよりも、あゝいう地位にいて、自殺しないということが不思議だと思う位ですよ、僕など……

坂口　そういういゝ方もおかしいですよ。

宮田　久米さん、はじめから自殺説？

久米　まあ、おれはあゝいうものを見るとこういうふうに考えるのだ、自分は自殺したいのだ、そしてさまよつていた。

坂口　なか〳〵自殺出来ないよ。僕もなんべんも自殺しようとしましたが、できるものじやありませんよ。

久米　だからそれに外力が加わつて、つまり自殺しようという……

坂口　自殺するには、自殺するような原因があるのですよ、下山さんにはあるのですよ、四面楚歌で自殺にもつて行く非常に大きな原動力があるのですよ。

宮田　実は私は慶応の中館は同級なんです、あれは完全な自殺説をとなえているのですよ。

坂口　彼の説はインチキですよ。自分は見ておらんのだからね。

宮田　なんとか反応とかで、自殺説なんですが、それで僕は他殺説に傾いたのです。

坂口　最初に座談会をやつたのが彼ですよ、江戸川（乱歩）は自殺だというのですよ、僕もわからないのですよ、わからないのですが、やつは死体をみないで、たゞ自殺だ〳〵といつているのですよ、学者ともあろうものが。

宮田　公平にみて東大の検索の方が科学的にみているのです、僕は他殺説になつたのですよ、あいつが自殺説をとなえたので……

坂口　なにしろちつとも、現場をみないでいうのだから……

小野　それじや、ひどいね。

坂口　学者じやないね、あれはひどいね。

宮田　最初から自殺にきめておつたね。

久米　あなたは現場へ行つたでしよう、見た瞬間どう感じました？

堀崎　それも申上げかねますね。

久米　そんな馬鹿なことないよ（笑声）。

坂口　見た瞬間に自殺と思つたらしいですね、死体のあれが自殺らしいですね、飛込自殺らしいのですね、ばら〳〵になつたところなど……

久米　どうです？

堀崎　まことに不誠意な話で、どうも……（笑声）われ〳〵は慎重にやつているが、まだ結論を出していないというふうに御理解願つておけばいゝと思います。

坂口　私もそう思いますよ、他殺でないという、証拠はないですからね。

堀崎　はじめから結論をきめてやるということは捜査の常道じやないのです、われ〳〵は出て来る事実に従つて忠実に行くことがいいのじやないか、これはどうであると……きめてかゝるのがいけない、やはりそういう気持があるとちよつとしたことも解釈のしようで、右、左へとれるのです。

絶対に死刑だ

坂口　平沢さんについてはどう思っていますか。
久米　紅梅ちゃん、どっち？
市川　私は絶対犯人だと思いますね。
坂口　正しいだろうね。
市川　犯人でなくて、若しあゝいうことをいっているとしたら、犯人以上に憎むべきだと思いますね。
宮田　全然同感ですね。犯人でなくても死刑にしていゝよ、実際……（笑声）大下宇陀児がいっていましたよ、公判聞きに行って、あれは犯人ではないとしても、もう極刑だねといっていましたよ、僕は同感だよ。
小野　実に態度が不愉快で、人間というものじゃないね。
坂口　いっていることが、シドロモドロでなっておらん。
小野　芝居みたいなことをやって……ね。
坂口　あやしき歌など詠み……ね。
宮田　テンペラの研究というのが、おかしいよ。
久米　堀崎さんどう？
堀崎　あの方は第一審がすんだからなんですが……
坂口　もういゝでしょう。
堀崎　まあ、私は勿論絶対間違いないと思っています、そういう感情的な問題でなく、先程申上げた事実の集積から、そういう結論になっていますね、作ったといっても、あゝ作れるものじゃないですよ、で仮りに荏原、中井、帝銀、板橋、この四つの事件をみても、工作したあとが歴然としていますね。
坂口　これははっきりしていますね。
堀崎　これはみた人もありますね。
宮田　性格的にやりそうだね、しかもテンペラが得意だということを売り物にするのが、おかしいよ、絵はまずいしね。
坂口　まずいね、実際……
小野　捜査の時はすごかったそうですね、そつくりなのがいますね、これがしょっちゅう刑事におどかされて……手相見だったが。
坂口　しかし平沢が犯人だといったのはおれだよ、僕が文芸春秋に書いたのだよ、そしたら新聞記者がおこってね、あれは犯人であるというように取扱ってもいゝということを書いたのだが……当り前だよ、金の出所がいえないというのじゃ、いくら疑ってもいゝよ。
堀崎　それも平素十万、廿万と金を動かしている人なら、数が多いから忘れたというのも判るが、事件の前々日まで千円の金がなくていたのが、翌日になって急に……
坂口　数日前の犯罪より、自分の容疑の方が大きいのだからね、だからとても……
久米　あれ、伊東に関係があるかね。
小野　熱海だよ。
坂口　伊東かな。
小野　ラジオもって行ったというのじゃない？
堀崎　もっと先ですよ、山の中の温泉ですよ、ラジオもって行って聞いていて、その時なにも平沢が出ていない時、女中に僕は帝銀の犯人と間違えられてこまると、こぼしているのですよ、まだ写真も出来ないころで、平沢ということは全然出ていないのです、そういうことをいう必要もないのに……
小野　大変な奴だね、公判をみたが、驚いたよ。
坂口　あれはおかしいよ、あれと氷川丸の上で名刺交換した仙台の助教授なんかゞいるが、これも色男で、いじめられたそうだよ。

堀崎　あのときは人相による捜査を全国にひろげましたからね。
坂口　色男は全部やられたらしい。
堀崎　私の方の係長に似ているのがあつたのですよ、それでよくめの人の顔に似ていますといわれてね（笑声）あの写真の目は或る警察官の目ですよ、いろ〳〵方々から借りて来てあります。
小野　しかし、あの人相書はよく出来ましたね。
坂口　あれは色男全般に通じる顔だよ。
堀崎　平凡な顔だけに、捜査としてはやりにくいのです。
坂口　面通しはだめですね、信用しない方がいゝね。
堀崎　しかし集計的にみれば、結論は出ているのですよ。
久米　どういうふうに？
堀崎　一般に少くも心証を与えるだけのものは出ているのです、まず第一に、そうじゃないということをいうものはないのですよ、それだけで断定しろというのが無理なんじゃないですか、よく似ている――でいゝのじゃないかと思いますね、あとはわれ〳〵の方の捜査によつて、他の事実とにらみ合せて行くことですね。
久米　未だに極め手ないのですか。
堀崎　われ〳〵からみれば問題は沢山あるのですよ。
坂口　この座談会で、彼を犯人ときめるのは悪いから、この辺でよしましようよ（笑声）
堀崎　裁判中ですからね。

巡査・ボス・競輪

坂口　堀崎さん現職だからいゝますが、文句をいゝますよ（笑声）
堀崎　結構ですね。
坂口　共産党が地下へ潜つてから実に荒つぽくなりましたね、僕ら自動車へ乗つていると、やい、こらッといつて止めまして、不審尋問されますが、あれ、やめるようにいつて下さいよ、生意気ですよ、癪にさわつて反感をもつてしようがないですよ。
宮田　人によりますよ、僕に会うと、失礼しましたというですね。乗客に挨拶するのは当り前だと思いますが、するのと、しないのがいますね。
堀崎　礼をつくして訊くことは訊き、然るのちになにもなかつたら、大変御迷惑をかけましたといつて、帰つて貰うと、そうすることによつて、理解を深めて、今後よくなるというやうな指導方針でやつているのですが、やはり大勢のなかには……
宮田　あれは個人差ですよ、最初止めて、ちよつと失礼しますといつて、運転手を調べて……
久米　その話に関連して、僕の事件があるよ。
堀崎　久米さん、あの事件は別座敷にしましようよ（笑声）
坂口　あれは久米さん悪いよ、あゝいうように書いたらいけないよ。
堀崎　あれは別座敷〳〵（笑声）
久米　君たち僕がなんか悪いような条件にあつたと思つているだろう、そんなことはないよ。
坂口　文章の書き方が下手なんだね。
久米　下手だつていうのは……
坂口　あんなふうにいつたら、文士が如何にも生意気で、特権階級みたいで、変ですよ。
久米　それを刺戟したのじやないか。
坂口　人はいゝがどうもあんたは……
宮田　林（房雄）君にもいわれておつたね。
久米　僕以外は全部敵だよ（笑声）これは一つのあれで……あと

でどうこういうことはないが……

宮田　あれはいけないよ。

（註　昨年某誌に久米氏は民主警察に『物申す』の一文を発表した）

坂口　頼みたいことがあるのですよ、地方のボスを退治るようなことは、考えて頂けないですかね。

堀崎　あとでよく私承って、直接の仕事でありませんが、知っている限り説明し、承って、それぞれ御相談しましょう。

坂口　この間、四日間競輪をみたのですよ、伊東競輪をね、全部八百長ですよ。

堀崎　むしろそういった面は、私の方で承っておきたい面が沢山あるのですよ、雑誌の記事にするのはなんですから、一応そのお話をして、あとで本当のところを、いろ〳〵承って……

坂口　四日間見ましたが、どうしても駄目ですね、地方の巡査なんてのは、当てにならないのですからね、ボスというものに問題にならないですね、それで、僕は毎日行っているでしょう、すると僕のところへ来るのですよ、警察の人が。そしてこれは八百長じゃありませんということを説明に来るのですよ、そんなことをいってもすべて判るのですよ。

堀崎　警察もあれがために警察官を増さなければならない、もっと凶悪犯罪の予防検挙に主点をおかなければならないのですが。

小野　もっと大事なことがあるのですね。

堀崎　そうかといって暴れる、火をつけたというと、ほっておけませんし、あれが無駄が多いですね。

久米　あれは、もとが悪い。

小野　フランスの競輪はいゝものですってね。

宮田　第一、銭賭けないからね。

宮田　お互い同志やっているが、車券なんてものはない、競馬だけだよ、競馬と犬だけだよ。

坂口　銭賭けても面白いじゃありませんか。

久米　賭ける方がいゝよ、賭ける方がいゝし、行くやつはバクチをするつもりでするといゝよ。

坂口　碁の世界選手権大会をやって、賭けるというのだよ、これもいゝね、しかしこれは、はっきりしているよ、儲からないから、よしなさいというのですが、やるそうだ、本当に日本棋院で計画しているそうだ。

宮田　券売るのですか。

坂口　うん。

久米　ベースボールはやめたよ。野球賤は。

坂口　日本は藤沢か誰か、支那は呉清源、ドイツはジュウバル、アメリカはなんとかいう奴、四人でやるというのです。

小野　碁将棋は神聖にしたいね。

坂口　それは面白いですよ、やるならやってもいゝが、賭金が面白くないからね。

小野　将棋なんてものは風流ですよ、風流人ですよ、金儲けでないよ、風流は、勝負事になっちゃいけないと思いますね、競輪はしようがないね。

久米　競輪は廃止論か？

坂口　いや、廃止じゃないよ。

久米　あゝいうものは、なくちゃいけないよ。

小野　結局賑やかなものはあった方がいゝよ。

堀崎　出発の時期が悪かったのじゃないかな、平静なときに、訓練されて行けばよかったのですね。

宮田　僕は訓練の足りないうちに大事件が起きたという感じがしますね。

坂口　予想屋が入って来るのがいけないね、主催者が予想屋のもっているより完璧な資料を提供するのだね、どこの競輪場でこの選手を何着出したというのを十以上出すのですよ、予想屋はそれ以上知らないのだから、そうすると伊東温泉の温泉客が楽に車券買えますよ。

宮田　とにかく、もう少し血眼にならない方がいゝですね、日本人の癖かな。

坂口　伊東競輪は主催者が血眼なんだよ、伊東市がね、見物が来てないものですからね（笑声）

宮田　見物がないの？

坂口　前のレースが終ると、車券売っていますから、お買い下さい〳〵と叫びつゞけですよ（笑声）

小野　僕は競輪というものは洒落でないといけない、洒落本だよ（労働者が来て、あしたの金に困るといってやる、あれがいやなんだ。）

宮田　生活費でやるものじゃないよ。

小野　それがいやなんだよ。

坂口　遊びなんだ。

小野　汗ふいて来たやつが、日曜日に遊ぶといって文句いわないで、やって来ればいゝのだ。

堀崎　もと〳〵すてる金ならいいですね。

宮田　パリでは久米さんと一緒に行ったが中に広場があって、そこが安くなっているのだ、五フランだよ。

小野　それなんだよね。

坂口　しかし大体のシステムは小遣でやるように出来ているのですよ、生活費を賭ける奴が出ても勝手にやるのだからかまわない。

宮田　そして安全だね、僕は金がない時は五フランで、馬券も五フラン、当時五フランは四十銭だから、五円もっていると一応遊べるからね、そうしているうちなんか大穴が出て、ひどく当ったのが二人いたが、オー〳〵といって、他の奴が拍手して、当った奴も実に二コ〳〵してね、いゝ風景で、ちっともこわくないのです、日本だったら大穴だったらこわいね。

久米　ワーッと動いて行くかも知れないね。

市川　私も、あれ好きですが、競輪の方はきらいですわ、あんな気がきかないなりはないですね、挨拶するでしょう、温室みたいなところから出て来て、とても情なくなっちゃうですよ。

宮田　誓いみたいなことをやるでしょう、軍国主義を思い出してね。

堀崎　競馬の方が、品がいゝですね。

久米　競輪は民衆的でいゝね、僕は大好きですね。

宮田　日本人はセレモニーが下手だね、もっと明るいセレモニー出来ると思いますね、演出が悪いよ。

坂口　手を振らないからね、奴らは……

久米　競輪廃止したら、ずい分淋しいね。

宮田　廃止論じゃないよ。

市川　やる前に、皆におじぎさせたりするあれ妙ね。

久米　芝居じゃないものね。

市川　そうでなく悠々と、わざとらしくないようにしたらいゝのに、はじめになんか読まれたらいやになっちゃったの。

坂口　敢闘することを誓うとかね（笑声）

小野　まるで特攻隊だね、あれはいけないよ。

宮田　僕は感想をきかれたら、全然いかんといっておいたがね、勝つと花輪もって行くのが、この位の赤いおべべ着たお嬢さんだろう、外国人が来たわけじゃないし気のきいた女優でも使えといって

いるのだよ、それから四方拝みたいに、あちこちおじぎするでしょ。いやんなっちゃうね、セレモニー下手だよ、こんなセレモニー下手な奴はないよ、演出をスマートにやるとスマートに行くよ。

久米　大体あんなの、皆がみていて、花なんか貰っても喜ばないですよ。

小野　とにかく粋にしなければならないね、家も殺ばつとして、コンクリートだけのものじゃいけないよ、色彩使って、旗を立てゝ楽隊でもやって……ね。

堀崎　そういう雰囲気にも関係があるでしょうね。

小野　予想屋が入口で、さあさあ、これをお買いなさいといって怒鳴っているのは、いかんね、音楽で、静かに入って恋人と一緒に一日遊ぼうというものだよ。

坂口　伊東競輪で大間着おきてひどかったですよ、東京ならば大事件だったね、着順が写真判定になってやったが縞の模様が逆に出て来ないんだ、一着、二着、三着、みな縞なんだよ、色がないものだから、着順間違えたの……（笑声）

小野　白黒じゃわからないね。

坂口　見世たら顔が違うというので間違ったことが判ったのです。さあ、今度は大騒ぎになったですよ。

小野　それは大変だね。

坂口　面白かったよ。

小野　天然色でやらなければいけないね。

坂口　判らないのだよ、ところが騒げないのだ、周りに三人位しかいないものだから、騒げばわかるからね、警官の数と見物人と同じ位の数なんです。

堀崎　それじゃ大して儲からないですね。

坂口　それで大穴が出るのですよ、面白いですよ、却って小さいところが大穴出るらしいよ、つまりだれも買わないところを一つ買えばいゝのだから……

小野　競輪はなくしちゃいけないと思うね。

坂口　楽しいね。

久米　とにかくイギリスの、あれだけ保守的な労働党が週末には必ず競犬をやるんだからね、それは勿論賭けないのですよ、つまり僕は競輪のなにがいけないかといったら乗っている人がいけないと思いますね、人に対する不信用、君みたいな（小野氏に）不信用がない人だけだったらいゝが……労働党なんか、必ず週末にロンドンでグレーシングというものを、ちゃんとやるのだよ、つまり競馬に行けない奴が五十銭一円というのを賭けるやつなんだ。

宮田　おまけに夜だからね。

久米　いゝね。

宮田　夜で、電気で照明して……

堀崎　犬のところだけ？

宮田　見物席も電気ついていますがね、芝生ですから……

小野　ドッグレース、どうしてやらないかと思うですね、東京都知事が許さないのかね。

宮田　犬がないだろう、グレイハウンドのこんなのばかりだから。

小野　駄犬でいゝよ、面白いよ。

堀崎　途中で帰って来たり（笑声）

小野　優秀犬はいけないよ。

宮田　兎の白線が走るのだからそれがあれば駄犬でも追うだろうね。

小野　人間がやるから問題が起きるのだが、犬にやって貰ってね。

宮田　夜だからいゝね。

小野　今の競輪をみなドッグレースにしたいね。

久米　もと〳〵考えれば、そんなに文句いつて騒動にまですることはないですよ。

場末のゲイジュツ

小野　久米先生、ストリップガールね、またハデにやつて、事件起していますね、あれは刑法からいうと、猥褻物公然陳列罪ですか――（笑声）おれも聞いて笑つたね、猥褻物公然陳列罪でしよ。（堀崎氏に）

堀崎　私は、殺人強盗専門ですから（笑声）

坂口　大したことはないよ。

久米　あんなの文句いうところもなにもないよ。

坂口　あつた方がいゝよ、あれはたゞ、今日本のは真中にあるからいけないよ、あんなものは場末にもつて行くべきだね。

堀崎　廓みたいにして。

久米　廓でなく、それじやいけない。

堀崎　私は警察的な考えですがね、すぐやはり事故のないように考えますからね、なかゝ裸になれないですね。

坂口　今にそうなりますよ、十年もたてば、ほつておけばそうなるよ。

小野　結構面白いよ、坂口さんごらんになつたことある？

坂口　見たよ。

小野　楽しいね。

宮田　小野ちやん、裸すきだからね（笑声）。

久米　なんで、あれに猥褻感じるかというのだ。

坂口　見物人がすごいのですよ（フーツと溜息）つもらさないですよ。

小野　紅梅さん見たことありますか。

市川　えゝ、相当見ます。

小野　あなたが見ても面白いでしよう。

市川　この頃非常にうまい人と体のきれいな人が出て来ましたね（はじめはこんなのかと思う位でしたね。

宮田　体のきれいということが第一ですね、ダブゝしたのが出て来るとガツカリするね。

坂口　美術品だからね。

宮田　パール浜田はいゝね（笑声）

小野　おれも贔屓だよ、作品だよ。

久米　ストリップというのは、あれ見て、したいという気が起きる？

小野　起らないよ、あれはやはり一つの……

久米　そういう階級があるのかな。

小野　それが問題なんだよ。

久米　こうやつて、ゞフと腕をくんで目をすえる恰好をする、みている（笑声）サラリーマンとか。

小野　学生とか。

堀崎　一番大きな層のところにどういう影響があるか？

久米　あるのかねエ。

宮田　僕は仲と行くが、問題にならないよ、美術学校で裸ばかり描いているんだから、親子で、いゝ体だなあといつて感心しているからね。

坂口　少しも嘆くべきところじやないですね、自然に下火になつて行くよ、日本人が悪いのですよ（他の芸人が下手だつたから駄目なんですよ、芸術家がうまくなれば場末へ行くよ。

小野　それはその通りだよ。

久米　西洋のラインダンスはあの程度だからね。
坂口　中央でやるということが大変なんだよ、だから実際僕は文学でもそうだよ、チャタレイがどうのこうのといっているが、僕はいゝと思うね、支那の猥本やなんかゞのさばるのは、僕らがのさばらせるからだな、僕らがいゝ作品を書けば、あんなものは場末へ行くよ、場末へ行ったら禁止しなければいい、禁止したらいけない。
久米　その場限りの興奮じゃないかね。
坂口　禁止しちゃいけないね、禁止するより僕らに、いゝものを書けといった方が大事ですね、それは僕らの責任だよ。
宮田　レビューだって大豪華レビューやったら、ストリップなんて馬鹿々々しくて行けない。
小野　宮田さん知っているが、われ〳〵裸をみていますね、モデルとあれとは違うね、ものをつけなくちゃいけないという警視庁の命令は、あれはものをつけてもつけないでも同じですよ。
久米　つけた方がいゝ？
小野　エロになってしまうね。
坂口　汚くてみちゃおれないよ。(1)オッパイ小僧なんて、あのオッパイをいゝといった絵描きには、あきれたね。
小野　バランスのとれない体でひどいね。
坂口　美しくもなんともない、ところが一番代表的な権威がそういうことをいうと見に来るからね。(2)

チャタレイ夫人と性欲

久米　大体それほどのことはないのだがね、チャタレイを読んで立つといっているのだがね、裁判官は。
坂口　立ちますよ。
宮田　僕は立ちますね。チャタレイの方が立ちますよ。
久米　よそへ行って、する気になる？
宮田　ならないよ。
久米　その問題だよ。
小野　チャタレイのさわりを読むと、おれもワク〳〵する、それで本を閉じる、例えば女学生が読んだとする、或は……
坂口　あそこをみるとワク〳〵するよ。
久米　その時、恋人が来て、ちょっとしましょうとかいうか知ら(3)それが問題だがね。
小野　それはどうかな。
久米　いや、これは微妙だよ。
小野　チャタレイの本を読んだら、恋人が来て、おいでといってその女が恋人にやらす、これはチャタレイの問題じゃないよ、他の意味で読んでも同じだよ。
宮田　チャタレイが刺戟になることは絶対認めるよ、一番にこのことは反対するね、あれを芸術だからということは反対ですよ。
久米　どういうわけで？
宮田　そんなことをいったら春信でも芸術だからね、あれを一般公開したらいゝといったらいけないでしょう。
小野　絵からいったら、歌麿なんか飛行出来ないね。
坂口　常識を高めるために、ザラに出しておいて、その中から選ばせるというのが大事だよ。
堀崎　選び得ないで悪い方に動く人があるのですよ、現実問題として……
坂口　極く少数ですよ。
久米　パーセンテージはどの位ですか？
堀崎　パーセントを出す方法を知らないが……

久米　知らないということはないよ。
坂口　その何十倍という人が買いますよ。
堀崎　パーセンテージは兎も角たゞ今いつた影響する層と、その結果がどうなつて来るか、今仰言やる方向に進めば一番いゝでしようね、現実問題がどうかではないかということですね。
坂口　フランスは完全に発禁というものはないのですね。
堀崎　同じものでも、都会と農村と違いますね、その問題がいろ〳〵あると思いますね。
宮田　フランスも知つているが、フランスみたいに行くまでの弊害が日本では大きいと思いますよ。
坂口　誇大広告として取締ればいゝのですよ。
久米　猥褻罪……
宮田　猥褻文書と認めてなんとかということは問題だが。
坂口　猥褻文書じやないですよ。猥褻文書はもつとあるからね、あれ一つだけいつちや。
久米　あれはしかし本当にいろ〳〵教えているところがあるよ。
坂口　役に立つ人があるのですよ、だから僕は……
堀崎　層をきめてそのクラスの人はこうときめるといゝですね。
小野　それは出来ない、本を出す以上は。
宮田　フランスは自からそうなつているからいゝというのですよ。日本は競輪みても、なにをみても駄目だから、現状では発売はだめだというのですよ。
坂口　宮田さんは娘の父だからそういうことをいうのだがね。
久米　チャタレイ夫人というものがむつかしいよ、あれ正確に解釈しているかね。
小野　ちやんとした芸術品ですよ、そこまでの段取りが面白いですよ。
坂口　あそこ削つても芸術品だね、芸術品だから買つているのだよ。
宮田　十五万というのは猥褻を目的として買つたのが多いということを聞いたね。
久米　性欲というものは……
宮田　性欲にもつて行つたらいけないですよ。
坂口　ほつておいたら誰も買わないよ。
宮田　そこをいうのだよ、それがいけない。
小野　チャタレイでなくても別の本でもあるよ、それは売れないよ。
宮田　出す前に処理すべき問題だね。
坂口　僕は出版しても、かまわんと思いますよ、あゝいうことをいうことがおかしいね。
久米　微妙な線だね。
小野　チャタレイという本が出ると、左文みたいなのが現われるという、あゝいう関係をつけることがいけないね、それを警察で、あゝいう本が出るから若い層の悪事の数がふえるというようなことをいうから……
宮田　紅梅ちやん、読んだかい。どうだつた？
市川　面白かつた。
宮田　うまいね、にげたね（笑声）
久米　面白いよ、ちやんとした小説だから。
堀崎　私は読んでないのですよ。
久米　読みなさいよ。
堀崎　なか〳〵手にも入りませんしね、たゞ私が女の殺された事件を扱かつていますが、それの最初、捜査するまでに沢山の犠牲者があるのです、外に知られないものは、驚くべきものです、しかも

動機はどこにあつたかということを考えると非常に考えさせられることがあるのですね。

坂口　僕は犯罪というものを考えて、悪質と良質というとおかしいが、質が二つあると思いますね。

久米　善意と悪意だけですね。

坂口　例えば小平みたいな、これは許すべからざる犯罪ですね。

堀崎　あれは個性が多分にある。あれは真似しろといつても出来ないですね。

久米　樋口だつたら同情するからね、少女をつれて行つたあれね。

堀崎　あれは私が関係しましたがね、あれも前からあゝいうことをやつていた。

宮田　変質者でしよう。

堀崎　前科者ですよ、まあしかし被害者の親さようだいになつてみると、非常に深刻な問題で、一がいに議論するわけにいかんと思いますよ、私はそこまで考えなければならないのじやないかと思いますね。

坂口　田舎に行くと、暴行村とか、沢山ありますね、北海道でもどこでも……

小野　発売禁止というが、新聞ですごいのがあつたね、浦和の強姦村ね、強姦村なんてことは新聞に書くことはないよ。

坂口　盛岡でも、方々にあるのだよ。

小野　新聞にもいろ〳〵なのが出るね、チヤタレイ以上の面白さだよ、そのなかでも浦和の強姦村、これがトツプですよ、おれの家の子供もみるんだから弱るよ。

坂口　中間にある村が全部強姦しているのだよ。

小野　学校の先生もみんなやつて……

宮田　すごいね！

小野　この記事の方が、ずつとこわいよ、チヤタレーより……チヤタレー読むのは、楽しいがね、文学だから……

久米　運命を拓こうとしている必死な狙いがあるが、僕は決してあれを読んで悪になるやつもあるかも知れませんが、あれを読んで幸福になるのがいますよ、日本の夫婦生活はね。

小野　多いと思うね、救われるやつの方が多いと思うね。

堀崎　夫婦者が読んだら、喧嘩なんということはないがね。

坂口　誇大広告として取締るべきですね、決して本として取締つちやいかんのじやないですか。

堀崎　私はその点は関係がちがうから、畑ちがいでね、私のやつて居た仕事は、誰もいゝと仰しやることはないと思います、殺人強盗なんてものは……

久米　あゝいう場合にも三分の理ということはありますかね。

堀崎　三分の理というよりも、そこまで来る過程で非常に涙の出るようなものもありますね、何回も〳〵聞いていると非常に気の毒でね、そういうのがありますね、いろ〳〵変質的なものをもつている人がやつたのと、正常な性格もつた人が、どうにもならずして、やらざるを得なかつたという事件もあるわけです、そういう時にいろ〳〵その家庭には考えさせるものがありますね、いろ〳〵なふうにものをいゝたいと思うようなこともありますね。

久米　じやあこの辺で……

――福岡女子大学助教授――